

第5学年1組 学級活動（1）指導案

平成27年11月17日（火）第5校時

指導者 西山 裕二

1 議題 「6年生が卒業しても忘れない、ありがとうの会の計画を立てよう」

2 議題について

（1）学級の実態（男子4名 女子7名 計11名）

本学級のある更科小学校は、全校児童が64名の小規模校である。分校があり、本校までの通学に距離がある児童は1年から4年までを主に分校で学習することになっている。だが学習や行事を通して、本校と分校では交流を行っており、全校児童の顔と名前はほとんどの児童が知っていると思われる。

本学級は5年生になり、分校から2名（女子）の児童が加わり、計11名で始まった。分校からの2名は、最初は人数が増えたことや学級に男子がいることに、多少の戸惑いが見られた。しかし、これまで4年間の交流活動もあり、すぐに学級に馴染むことができている。

本学級は、「明るい雰囲気にしてくれる人が多い」ととらえている子供が多く、普段から笑いが起こる明るい学級である。ほとんどの児童が幼稚園や保育所から同じクラスということもあって、お互いについてよく知っていると思われる。また、学習態度や、時間や学校のルールを守って行動するなどの基本的な生活習慣はほとんどの児童が身に付いている。

話し合い活動についてだが、前学年までに話し合いの司会を経験したことがある児童が限られていた。そこで、夏休み前までは担任から「学級目標を決めよう」、「Rさん（体験留学生）のお別れ会の計画を立てよう」等の議題を出し、担任主導で話し合うようにしてきた。9月からは、計画委員会を組織して子供主体の学級会（「みんなで仲良く決めよう」学級会）を始めた。子供たちは、計画委員会を組織しての学級会が初めてでやり方など、わからないことが多かった。なので、計画委員会の活動は教師が入り一緒に進めていった。計画委員会を組織してからの学級会では、司会の役割に不安のある児童が多く、挙手した児童をただ指名するという場面が多く見られた。また、司会以外の児童についても進んで発言できないことが多くあった。ワークシートに書いた自分の意見を発表してしまうと、それで発言が終わってしまい、あとは限られた児童だけの意見で進んでしまうことが多かった。なので、意見の言い方の掲示物を利用したり、司会のためのワークシートを活用したりして指導している途中である。さらに、本学級では、計画委員が司会一名、副司会一名、黒板係一名で運営している。しかし、黒板係だけでは、意見を書いた短冊を整理したり、新たな考えを書き足したりするのに時間がかかってしまい話し合いが途切れてしまうことが多くあった。だからと言って黒板係の人数を増やしてしまうと話し合いに参加し意見を述べる人数が少なくなり、学級会での議論がしづらくなってしまうと考える。そこで、黒板係の活動の時には、必要に応じて担任が補助に入ることにする。その際には、担任主導で板書や短冊の操作をするのではなく、黒板係や他の児童に問いかけ話し合いの内容を確認しながら一緒に進めていきたい。

児童の実態について担任の主観だけではわからないこともあるのでシグナルⅡで調査をすることにした。シグナルⅡとは、千葉市教育センターによる学級の規範意識を可視化するための測定システムのこ

とである。シグナルⅡの肯定的回答率をみると全ての項目で8割を超える結果が得られた。これは、学級の児童数が少なく1人の回答が約1割を占めてしまうことが要因になっていると思われる。そこで、肯定的回答率ではなく「とても、あてはまる」と「まあまあ、あてはまる」の人数から学級の実態を考えていきたい。

「明るい雰囲気にしてくれる人が多い」、「学級の問題は、話し合いで解決するようにしている」、「先生とはよく話をしている」、「時間を守るようにしている」の項目ではほとんどの児童が「とても、あてはまる」に回答している。一方で、「自由に発言できる雰囲気がある」、「リーダーは、みんなをまとめている」、「リーダーに協力的である」の項目では多くの児童が「まあまあ、あてはまる」を選んでいる。特に注目したいのは、「学級の問題は、話し合いで解決するようにしている」では「とても、あてはまる」が多いにもかかわらず、「自由に発言できる雰囲気がある」になると「まあまあ、あてはまる」「あまり、あてはまらない」を選んでいる児童が多くなっている点である。理由としては、「自分の意見が間違っているかもしれない」、「自分の発言が合っているのか不安になる」、「自分の意見に質問されたらどうしよう」という思いを抱いている子供がいた。また「限られた人しか意見を言っていない」という意見も多くあった。誰のどんな意見であっても尊重し受け入れてくれるクラスづくり、自分の意見や考えに自信をもって話せるような雰囲気づくり、友達の見解を聞く際の姿勢に目を向けて、より活発に自分の考えを発言していけるようにしていきたい。

5年生になり、委員会活動や異学年交流活動、日々の休み時間などで高学年として自分たちだけでなく、下学年のことも考えて行動しなければならない場面が増えてきた。実際に「全校田植え」や「全校稲刈り」では6年生ではなく5年生が中心になって活動を行っている。だが、その中身については毎年決められているものをそのまま行ったり、以前に行ったものの中から作り替えたりしかできていないのが現状である。また異学年交流活動においても、6年生が一生懸命がんばっている横で、低学年の児童と一緒に遊んでしまったり、自分勝手なふるまいをしてしまったりするといった高学年としての意識に欠ける行動をしてしまう児童がいる。高学年として、下学年の友達に思いを向け行動していき、楽しそうな笑顔や元気に活動している様子を見て、それを自分の楽しみや喜びにできるようになってほしいと考える。

(2) 議題選定の理由

本校では、毎年2月に「ありがとうの会」を行っている。「ありがとうの会」を行う目的は、①お世話になった6年生に、感謝の気持ちを表し、卒業のお祝いをする②5年生を中心に、在校生全員で協力して会を計画・運営し、企画力・実践力を育てる③6年生は卒業への意識を高め、会を開いてくれた在校生に感謝の気持ちを表す、の3つとなっている。4月からこれまで、6年生が中心になって委員会活動や異学年交流活動、学校行事などを運営してきた。5年生には、普段から6年生の姿をよく観察して行動できるよう指導してきた。4月に比べると進んで行動できる場面が増えてきたが、まだ充分とは言えないのが現状である。「ありがとうの会」は5年生が中心となり会の企画・運営をしていく。準備から本番まで6年生の助けがない中で、これまでの6年生への感謝の思いを伝えられるような会を作り上げなくてはならない。また子供たちが「ありがとうの会」に対してどういう思いをもっているのかを知るために、アンケート調査を行った。アンケートの項目は①「ありがとうの会」はなぜ行っていると思いますか？②「ありがとうの会」はどんな会だと思いますか？③今年の「ありがとうの会」はどんな会にし

たいと思っていますか?の3点である。①の回答としてほとんどの児童が、「6年生への感謝の気持ちを伝えるため」という思いを書いていた。また感謝という気持ちの中身としては「今まで全校をリードしてくれたから」と書いている児童もいた。②についても6年生に「ありがとう」や「感謝」の気持ちを伝えるためと回答している児童が多く、中には「成長した自分たちの姿を6年生に見てもらおう」ためと回答している児童もいた。③については一人一人自分の思いや考えを書いており、以下のように回答されていた。

- ①卒業式とはまた別に、感謝の気持ちやありがとうの気持ちを100%伝えたいです。6年生が驚くような会にしたいです。
- ②おもしろく感謝の気持ちを伝える会にしたい。
- ③6年生には笑顔のまま終わってもらえるような会にしたいです。
- ④楽しく、ありがとうという気持ちを伝えられる会にしたい。相手に楽しく笑ってもらったり、それでもありがとうという気持ちを伝えられるようにしたい。
- ⑤楽しい会にしたい。みんなで盛り上げて楽しいありがとうの会にしたい。
- ⑥楽しく、感動のある会にしたい。
- ⑦感動とおもしろさが合わさった会にしてみたい。
- ⑧6年生が楽しんでくれるような会にしたいです。
- ⑨6年生が楽しかったり、面白かったり、感動したりするような会にしたい。「楽しかった」「すてきな会にしてくれてありがとう」という言葉が6年生から出るような会にしたい。
- ⑩今までのありがとうの気持ちを伝えられる会。6年生が感動やうれしくなる会にしたい。
- ⑪6年生に「ありがとう」という気持ちをこめた会にしたいです。

「感謝」や「ありがとう」という気持ちは共通しつつも、それを伝えていくための方法には違いがあり、子供たち一人一人が「ありがとうの会」に対して自分なりの思いをもっていることがわかった。また一人一人の思いには少しずつ違いがあることもわかった。そこで、一人一人の「ありがとうの会」に対する思いを、学級全体で共有し全員の思いが全てつまった、「6年生が卒業しても忘れない、ありがとうの会」を企画する。また、5年生だけで、会の構成や内容を考えていく中で、一人一人が役割をもち、責任を果たし、協力してよりよい「ありがとうの会」が行えるようにしたい。そして6年生からの感謝の気持ちという「会の成功」を経験し、他者の喜びが自分自身の喜びになることの充実感を味わってほしいと考える。来年6年生になった時には「ありがとうの会」の企画・運営での経験を生かして、学校のリーダーとして一人一人がより楽しく豊かな学級や学校を作ろうという意識をもって学校を盛り上げていってほしいと考え、本議題を選定した。

3 研究主題とのかかわり

部会の研究主題・研究仮設は以下のとおりである。

研究主題

「自主的・自発的に行動し、生きる力を身につけた児童生徒の育成」
～望ましい集団活動を通して、児童生徒の自主的・実践的態度を育成する指導のあり方～

研究仮説

- (1) 学級活動等の集団活動において、集団の実態を踏まえ^①、一人一人の児童生徒の課題意識や役割分担を明確にし^②、活動の過程を具体的につかませ^③、活動に取り組ませれば、児童生徒の集団への帰属意識や活動での達成感が高められ、自主的・実践的態度が育つであろう。
- (2) 話し合い活動において、話し合いの効率化を図る^④とともに、活動の目標の共有化^⑤を図り、考えや取組の可視化や認め合う活動^⑥を行っていけば、取組への意欲や達成感が高まり^⑦、自主的・実践的態度が育つであろう。

常時活動に関わる手立て

○学級会コーナーの設置・・・(1) ②

教室の後方に学級会コーナーを設置する。学級会の流れや次回の学級会の議題、学級会で決まったことなどをいつでも目に見えるように掲示しておくことで、学級会に対する意識が高まると考える。

○話し合いのルール徹底・・・(1) ①

シグナルⅡの調査結果からもわかるように、満足に「自由に発言できる雰囲気がある」と感じている児童が少ないことがわかった。これらの児童は「自分の意見が間違っているかもしれない」という不安や「限られた人しか意見を言っていない」という不満を抱えている。子供たちには学級会だけではなく日々の学習の中で、「挙手し指名されてから発言すること」、「友達の意見には最後まで耳を傾けること」、「友達の発表が終わったら、何らかの反応をすること」を繰り返し指導していく。司会者には挙手している人が複数いた場合は、発言が少ない人から指名するように助言しておき、限られた人の意見や考えだけで学級会が進んでしまわないようにする。話し合いのルールを徹底していくことで、誰もが発言しやすい雰囲気を作られていき、自信をもって自分の意見を発言できるようになると考える。

○学級会カードの事前準備とコメント・・・(1) ②、(2) ④⑤⑥⑦

学級会が行われる数日前に議題を知らせて学級会カードを配り、自分の考えを十分に考える時間が確保できるようにする。そうすることで自分の考えが整理され学級会で発言しやすくなると考える。更に、事前に学級会カードを集め、コメントを入れておくことでより自信をもって発言できるようにしたい。

○司会者へのお助けカード・・・(1) ②③、(2) ④⑥

本学級はこれまで学級会の経験が少なく、特に司会の役割に不安を感じている児童が多い。そこで司会者へのお助けカードを用意する。そうすることで、場面に応じて適切な発言ができるようになり、学級会を円滑に進められるようになると思う。またお助けカードは前もって全員に配っておき、全員が学級会の全体の流れに見通しをもって学級会に参加できるようにする。そうすることで、司会が止まってしまった時に助けてあげるなど、全員が司会者に協力して円滑に、学級会が進むと考える。最初のうちは、お助けカードの言葉をそのまま読んでかまわないが、回を重ね慣れていくにつれ、少しずつ自分たちの言葉で学級会を進行していけるよう助言していく。

今回の議題に関わる手立て

○「ありがとうの会」に対する全員の思いの共有化・・・(2) ⑤⑥⑦

「ありがとうの会」の計画を立てる際に、まず子供たちがどのような思いをもっているのかを知るためにアンケートを行った。アンケートの結果から一人一人の「ありがとうの会」に対する思いには違いがあることがわかった。そこで、全員の思いを共有し、5年1組としてどんな「ありがとうの会」を作っていきたいかを考える。全員の思いを受け入れ認めていき、クラスとしての目標を掲げることで、「ありがとうの会」に対する心構えがはっきりし、これから何をしていけばいいかが明確になると考える。

○これまでの「ありがとうの会」の内容や掲示物の振り返り・・・(1) ②、(2) ⑤

子供たちは5年生になるまでに4回「ありがとうの会」を経験してきている。これまでの「ありがとうの会」で行われてきた学年ごとの発表や会全体のプログラムなどを振り返ることで、どのような内容のものをどの学年が行ってきているかが明確になるだろう。特に、6年生の入退場の仕方や装飾の工夫については資料を提示していく。ただ、写真を掲示するのではなく、毎年共通するものや異なったものに注目できるような吹き出しを入れていく。そうすることで、「ありがとうの会」のどこに着目して考えていけばよいかが変わりやすくなり、より自分の意見を出しやすくなると考える。過去の「ありがとうの会」を振り返る中で、良かったものや変えていけそうなものを見つけしていく。そして全員で掲げた目標を達成するためには何をしていけばいいかを考えていかせたい。

本時でも、何について話し合っているかをわかりやすくするために、ホワイトボードに資料を掲示し子供たちに見えるようにしておく。さらに、話し合う中で、今のままでよいところや工夫してかえてみたいところが決まったら、その部分にわかりやすいようにマークをしていく。何を残し、何を工夫して変えていくかを明確にすることで、どのような工夫をしていけばいいか考えやすくなると考える。

以上のような手立てを講じることで、「ありがとうの会」に向けての取組への意欲や達成感が高まり、自主的・実践的な態度が育つと考える。

4 評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知 識・理解
「ありがとうの会」に関心を持ち、他の児童と協力して自主的に集団活動に取り組もうとしている。	「6年生が卒業しても忘れない、ありがとうの会」をつくるために話し合い、自己の役割や責任、集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。	「6年生が卒業しても忘れない、ありがとうの会」をつくることの意義や、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の効率的な進め方などについて理解している。

5 事前の活動

日時	活動の主体	活動内容	指導上の留意点
11/2 学級活動	学級全員	「ありがとうの会」に対する思いを共有し、クラスの目標を決める。	一人一人の思いが必ず入るようにする。
11/4 休み時間	計画委員会	議題や提案理由を確認し、役割分担や話合いのめあて、柱などを決める。	一人一人の思いや6年生への気持ちを大切に、めあてを立てるように促す。
11/5～9 朝の会 帰りの会	学級全員	過去の「ありがとうの会」の掲示物の写真や、内容についての資料を見て、同じところや変わっているところに目を向けメモを書く。	入退場の仕方・装飾・プログラムの順番・全校合唱などに注目してメモを取るよう促す。
11/11 朝の会	学級全員	これまでの「ありがとうの会」の内容をもとに、自分の意見を学級会カードに書く。	考えを事前に書かせることで、計画委員会が話し合う内容を明確になるようにする。
11/12 休み時間	計画委員会	全員の学級会カードをもとに意見を短冊に書き出し、話合いの中心となるものの目処をつけ、話合いの流れをシミュレーションする。	予想される流れを想定させ、本時の話合いを円滑に進行できるようにする。
11/17 (本時)	学級全員		

6 本時の活動

(1) 本時のねらい

- 「今までにないありがとうの会」を行うために、必要なことは何かを理由とともに進んで発言することができる。
- めあてに合った話合いを行い、実践への意欲を高めることができる。

(2) 本時の展開

話合いの順序	指導上の留意点	目指す子供の姿
1 始めの言葉	○司会者に注目するように促す。	<ul style="list-style-type: none"> ・話合いの進め方や約束を理解して、司会者で協力して話合いを進めている。
2 学級会のめあての確認	○全員で大きな声で発表するよう声かけをし、楽しい雰囲気作りができるように見守る。	
3 計画委員の自己紹介	○司会者に協力的な態度で学級会に参加するように促す。	
4 議題の確認		

6年生が卒業しても忘れない、ありがとうの会の計画を立てよう

5 提案理由の確認
「6年生が卒業しても忘れないありがとうの会を成功させることができたら、自分たちにとっても忘れられない良い思い出になって、来年に向けてもっと良いクラスになると思うから」

6 話合いの柱の確認
①今のままでよいところ、工夫して変えたいところはどこか
②工夫するアイデアを出すには何をしたらよいか

7 話合い
話合いの柱①
今のままでよいところ、工夫したいところはどこか
・入退場
・座席の位置
・プログラムの順番
・装飾について
・全校合唱の決め方 等
話合いの柱②
工夫するアイデアを出すには何をしたらよいか
・本で調べる
・パソコンで調べる
・先生方に聞く

○事前に学級会コーナーに掲示し、知らせておいた議題・提案理由・めあて・話合いの柱を再確認し、意識して話合いを進めていけるようにする。

○これまでの「ありがとうの会」に関する資料をボードに掲示して、子供たちに見えるようにすることで、話し合い意見を出す際の手助けとする。

○事前に全員の学級会カードにコメントを記入しておくことで自信をもって発表できるようにする。
○発表に合わせて、事前に準備しておいた短冊を黒板に貼るように助言する。また、新しい意見についてはその場で書き足していくように促す。
○発表する児童が偏らないように、複数の児童が挙手した場合は、まだ発表していない児童から指名していくように助言する。
○自分の考えに固執せず、他の意見の良いところを取り入れたり意見を合わせたりしていくように促す。
○板書や、短冊の移動については必要に応じて支援していく。
○柱①については、大まかに今のままでよいところと工夫したいところを分けていくことを中心と

・自分の考えを理由とともに進んで発表している。
・友達に考えと自分の考えを比べながら聞いている。
・友達の意見を参考にして新たな意見を考えて発表している。

<ul style="list-style-type: none"> ・おうちの人に聞く ・他の学校の友達に聞く 等 	<p>し、この場で最終決定をしないように助言をする。</p> <p>○今のままでよいところや工夫して変えてみたいところが決まったら、その部分にわかりやすくマークをしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今のままでよいところ⇒「いいね！」マーク ・工夫して変えたいところ⇒「うーん」マーク <p>○柱②については、子供たちから意見が出にくい場合は必要に応じて助言していく。</p> <p>「誰が、ありがとうの会について、よく知っているのかな？」</p> <p>「何かわからないことがあったら、今までならどうしていたかな？」</p> <p>「ありがとうの会は、他の学校ではやっていないのかな？」</p>	
<p>8 決まったことの確認</p>	<p>○副司会者が発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生が卒業しても忘れないというめあてに向かって、工夫したいところや、そのためのアイデアを出す方法を決めることができる。
<p>9 話合いの振り返り</p>	<p>○よかった点や課題について自己評価するとともに、友達のよかったところや次回改善していきたいことについても記入していくよう助言する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級会カードに振り返りを書き、次回に向けての反省や目標を明らかにしている。
<p>10 先生の話</p>	<p>○今日の話合いで6年生のことを考えて良いアイデアをたくさん出してした児童や意欲的に参加していた児童を称賛するとともに、今後の課題を伝える。</p> <p>○計画委員に対するねぎらいの言葉をかける。</p> <p>○今後の活動に対する見通しをもたせ、事後の活動に向けて意欲が高まるような声かけをする。</p>	
<p>11 終わりの言葉</p>		

7 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点
11/19 (木) 昼休み	決まったことを学級会コーナーに掲示する。	学級会で決まったことの要点をまとめて書けるように計画委員に助言する。
11/26 (木) 朝の会 帰りの会	前回の学級会で出したアイデアから、何に、どのアイデアを採用していくかを決定する。	採用するアイデアを一つに絞るのではなく、必要に応じて使い分けてくように助言する。
11/30 (月) ～ 12/11 (金) 休み時間	決まったアイデアに従って、「ありがとうの会」のよりよい工夫をするための準備に取りかかる。 (採用されたアイデアでグループなどに分かれて活動していく。)	協力したり、工夫したりして活動できている児童を称賛する。 何をしてよいかわからない児童には、めあてに戻って行動できるように促す。
12/14 (月) ～ 12/18 (金) 朝の会 帰りの会 総合的な学習	6年生が卒業しても忘れない、ありがとうの会にするために、どのような工夫をしていくかを決定する。 (朝の会や帰りの会を使い、それぞれが活動してきたことを報告し、総合的な学習の時間を使って決定していく。)	「6年生が卒業しても忘れない」というめあてを考えて、工夫していく内容を決定するように助言する。
1/18 ～ 前日まで 総合的な学習 (全13時間)	係に分かれて準備	協力したり、工夫したりして活動できている児童を称賛する。 何をしてよいかわからない児童には、めあてに戻って行動できるように促す。
2/26 (金) 2・3校時 行事2	「ありがとうの会」の実施	全員で協力して、「6年生が卒業しても忘れない」というめあての達成に向かって実践できるようにする。
2/26 (金) 5校時 学級活動	「ありがとうの会」の振り返りを行う。	めあての振り返りを行い、お互いの頑張ったことに気づけるようにする。

※具体的な活動は総合的な学習の時間の「6年生に感謝の気持ちを表そう」の単元の中で進めていく。